

イギリス北部の旅



期 間

2010年9月6日(月)~9月18日(土)

イギリス全図と訪問先



【行程】

9月6日(月) 曇

16:30 発の東京便に乗る前にパスポートを忘れたことに気づき、タクシーで自宅まで帰る。そのまま松江駅へ行き、出雲空港行きバスに乗る。幸い最終便のチケットに追加料金なしで乗り換えることができた(--);。夕食は出雲で摂り、羽田は 20:30、横浜駅までバスで行き息子の出迎えを受ける。3人で夕食会を行い、グリーンヒル三ツ沢には 21:20 に着いた。

9月7日(火) 曇

7:30 に出発し、横浜駅から成田行きのリムジンバスに乗る。成田着は 9:50、QL ライナーから荷物を引き取り、チェックイン処理が終わったのが 10:30。アムステルダム行きは予定より 30 分早く出発した。映画を見た後で眠ろうとするが、夜中の 1 時半になってもなかなか眠れない。少しうとうとして、18 時にアムステルダム着。乗り換えてカーディフに着いたのは 21 時。インド人、北大の学生（浅野さん）との 4 人の相乗りでタクシーに乗り Cardiff Sandringham Hotel へ。就寝したのは 23 時で、とても長い 1 日だった。

9月8日(水) 曇

いよいよ今日から KES の国際会議が始まる。タクシーで会場の Mercure Holland House Hotel へ行く。吉田先生、山田先生、水野先生とその奥様方と 3 年ぶりに再会した。Opening セレモニーでいよいよ会議が始まったことを実感する。昼食はイギリス式でサンドイッチが中心。帰りは歩いて帰ったが、ホテルを見つけるのに手間取った。夜は美しいカーディフ城で Drinks reception があった。その後は水野、吉田、山田夫妻など 12 人で街へ出て食事をする。私はタイカレーを食べ、飲み物はワインでおいしかった。割り勘で一人 11 ポンドだった。一緒になった馬場先生が賑やかだった。

9月9日(木) 晴

今日は私達にとってフリータイムの日。ホテルでしっかりと朝食を摂る。9 時に出発し、まずカーディフ・セントラル駅でカーディフ・パディントンの特急・指定席券をうまく手に入れた。そして 10 時前にカーディフ城へ入場した。ガイド付きの券を購入する。ガイドは男性による英語で、2 人の西洋人と一緒に受けた。約 2 時間に渡り詳しい説明を受けたが、細かいところは理解するのが難しかった。その後は砦に登り市内を一望した。カーディフは昔のウェールズの首都だが、思ったよりこじんまりした町だった。城を出てカーディフ国



立博物館・美術館へと向かう。シティーホール周辺は緑と花の美しい公園になっている。2階が美術館でたくさんの絵画があり、1階は博物館で地球の古代の歴史が展示されていた。帰りにマーケットへ立ち寄った。たくさんの果物、肉、魚が並んでいた。一旦ホテルへ戻り少し昼寝をした。そして19時過ぎにヒルトンホテルへ行き、バンケットに臨んだ。参加者は約200名だった。キャノンの結城さんの隣でいろいろと話をした。ボリュームのあるフルコースを完食するのに苦労した。



9月10日(金) 曇後雨後曇

今日はいよいよ自分の発表の日である。10:30のセッションの最初に発表はスタートし、淡々とプレゼンテーションを行った。宗森先生、大阪大学の先生から質問があり、無難に答えることができた。14:10に会場を後にし、私達はロンドンのパディントンへと向かった。特急列車は羊と牛の牧場などのイギリスらしい風景の中を進んだ。2時間10分でパディントンに到着。タクシーでノーフォークタワーホテルに着いたが、シャワーが壊れているとのことで隣のノーフォークプラザホテルに廻された。夕食はKFCで済ませた。



9月11日(土) 曇

今日はロンドン観光の日。地下鉄1日券を購入し、まずはピンリコ駅で降りて美術館のテート・ブリテンへ入る。Historic British Art コーナーのターナー、ミレーなどの絵画を鑑賞した。ここで昼食を食べ、次はチャリングクロス駅で降りて名所のナショナル・ギャラリーへ入る。多数の部屋に分かれてボッティチェリ、レンブラント、ターナー、モネ、ラファエロ、フェルメールなどの絵画の展示があった。

そしてトラファルガー広場でネルソン記念柱をバックに写真を撮った。

最後はトットムコート・ロード駅から大英博物館へ入る。ここは7年ぶり2度目になるがツアーのため前回見られなかった所も、今回はゆっくり回ることができた。ロゼッタストーン、ミイラ、パルテノン神殿の彫刻群、貨幣コレクションなどが印象的だった。1日中芸術の世界を堪能して17時半にホテルへ戻った。夕食はトルコ料理レストランでご飯の料理にした。



9月12日(日) 晴

今日は移動日のため、8時半にチェックアウトを済ませ、ホテルに荷物を預けた。まず地下鉄でノッティングヒルに立ち寄った。その後ベーカーストリート駅から“ろう人形館”へ行った。多数の入場者でごった返していた。有名人の蠟人形は非常にリアルで、記念写真をたくさん撮った。ディズニーランドのようなアトラクションもあった。帰りは地下鉄のパディントン駅で降りるのに手間取った。ヒースロー空港までタクシーは65ポンドだった。ターミナル5から出発し、約1時間でエジンバラ空港へ着く。空港からRoyal British Hotelまではタクシー30分で30ポンドだった。何とか18時の会議夕食会に間に合った。飲みながら自己紹介をして19時から食事に入った。



9月13日(月) 曇

朝ホテルの外へ出ると風が寒く、スコットランドに来たことを実感する。いよいよIWIN2010の会議が始まったが、午前中は聞くのみ。15:30からいよいよ自分の発表の番となり、プレゼンテーションを淡々と進めた。残りの10分が質問の時間で、逆の場合(文から絵文字)の翻訳アルゴリズムを突かれた。座長の井上先生にフォローしてもらった。市川先生からは順方向の翻訳アルゴリズムをしつこく聞かれた。質問が終わり一気に肩の荷が下りたが、一人30分の持ち時間はきつい。17:30まで発表を聞き、昨夜と同じ食堂で夕食会に入る。水野先生が隣で結城さんが向かいだった。鳥の唐揚げがうまかったが、サンドイッチは今一だった。19:45に解散し、20:30には疲れて就寝した。



9月14日(火) 晴時々曇

今日は二人にとってフリーの日だ。まずエジンバラ城に行き、9:30のオープンと同時に入城する。入場料は音声ガイド付きで35ポンドだった。城は岩に貼り付いた要塞で、市内を一望する眺めはすばらしい。歴史あるスコットランドの首都らしい風景だった。内部は大広間、教会堂、砲台と王冠の展示が印象的だった。午



前中はこれで一杯となりホテルへ戻って昼食をとった。

午後はホリルードハウス宮殿へ行ったが、ローマ法王が訪問する関係で入れず残念だった。代替りのスコットランド美術館は今まで行った美術館の中で最もすばらしかった。ゴッホ、ゴーギャン、モネ、セザンヌ、コロー、ゴヤ、ボッティチェリ、・・・と盛りだくさんだった。美術館を出ると雨が降っていた。

夜はノースブリッジ・レストランで夕食会で、37人参加し2時間に渡って行われた。ツナ料理のボリュームに胃がびっくりした。黒ビールで何とか流し込んだ。21時まで続き、疲れてホテルへ帰った。

9月15日(水) 晴

今日は会議参加者がそろってバスツアーの日である。9時に34人集まり、日本人ガイド付きの大型バスでスタートした。

まずグラスゴーを経由し1時間半でローモンド湖へ行く。ここで約1時間のクルージングを楽しむ。外の座席で寒いですが、キャメロン・ハウス、オーシェンハグリッシュ・ハウス、アーデン・ハウス、インシュマリン島などの美しい風景を堪能した。湖から見える山の最高峰はベン・ローモンの1000mであった。



途中写真撮影をしながら次はスターリング城へ行く。昔スコットランドとイングランドで戦いのあった場所だ。自由行動で私たちは音声ガイドで城の中を歩き回った。エジンバラ城に比べると小さいが、美術館が楽しめた。

昼になって小さな村のレストランに寄り、カレーをおいしく食べた。

17:40にエジンバラに戻り、ホテルで一息入れる。再びバスに乗り、シェラトンホテルへ夕食会に行く。フルコースのディナーは豪華で、松平さんの話が面白かった。9時半に解散し、プリンセスロードからエジンバラ城の美しい夜景を見ながらホテルへ戻った。



9月16日(木) 晴

朝食後、ホテルを出てみると、ローマ法王訪問のためプリンセスロードは封鎖され、何組かの楽隊がバグパイプの練習をしていた。今日はロンドンへの移動日のため、チェックアウトをすませて9時にホテルを出る。会議メンバー全員で、エジンバラ大学まで歩いて行く。クローージングの後、全員で記念写真を撮った。下平先生の案内で中を色々を見せてもらう。研究棟のためセキュリテ

イは厳しいが、音響処理の設備などを見せてもらった。また別の校舎の講義室を見ることができた。集合写真を撮り、11時半に解散し皆と別れる。

私達はスコットランド博物館へ行き、ここで昼食を食べる。スコットランドの歴史やグラハム・ベルについて展示していた。13:40にホテルへ戻り、タクシー乗り場へ移動し、流しのタクシーを拾った。

エジンバラ空港はヒースローと同じくチェックが厳しかった。少し遅れて出発した。

ヒースロー空港には18:50に着いた。ここでBaggage claimの前に出口を出てしまい、荷物を受け取るのもう一度手荷物検査を受けることになってしまった(--);。インド人らしき家族が同様に忘れたらしく、チェックを受けていた。手荷物は2個だけ無事残っていた。ノーフォークタワー・パディントンには20:30に到着し、インド料理で夕食を摂る。就寝は22時だった。



9月17日(金) 晴

今日は帰国の途に着く日である。朝7時半にタクシーに乗り、55ポンドでヒースローのターミナル4へ。チェックイン機の操作は面倒で係員に頼んだ。チェックインと厳重な荷物検査を済ませ、8:30に中で朝食をとる。残りの現金を目いっぱい使って土産を買う。アムステルダム行きは11:45に出発し、オランダに14:10(時差1時間)に着いた。ここで帰国便を待つ3時間半は長かった。成田行きに乗ると、間もなく日本食の夕食が出た。なかなか眠れないが少しウトウトはできた。日本語付きの映画を2本見たところで朝食となる。いよいよ日本が近づいたことを実感する。

9月18日(土) 晴後曇後晴

成田には予定より早く11時30分に着いた。荷物をQLライナーに預け、身軽になって京成スカイライナーに乗る。東京スカイツリーが良く見えた。日暮里で乗り換えて荻窪で降り、久しぶりにうどんを食べる。イギリス北部は寒かったの、日本の暑さはこたえる。娘宅では2人が待ってくれていた。お茶とケーキを頂きながら話をし、帰宅のため16時前に出発した。

羽田でチケットを交渉して手に入れ、18:25の出雲便に乗る。ひさしぶりの我が家に着いたのは21時前だった。

【雑感】

1. イギリスについて

イギリスは今回が3回目の訪問になる。ロンドンも3回目だったが、今まで行かなかったテート・ブリテンやナショナル・ギャラリーを見ることができた。カーディフは小さい町だったが昔のウェールズの都であり、カーディフ城を中心に広い歩行者専用の通りもあり、夜も明るく過ごしやすかった。エジンバラは古い都らしく、美しく風格があった。特にエジンバラ城の夜景はこの上なくきれいだった。

2. 日常生活

気温は10度台で寒いぐらいで、エジンバラではセーターにコートが必要だった。概ね天気は良く、カサを使う機会は二度だけだった。特にフリーの日やツアーの日は晴れてくれた。寒いせいか日本のようなセミや虫の声は全くなかった。日本の11月くらいに当たるかもしれない。

治安は極めてよく、外を歩いても何の心配もいらなかった。カーディフやエジンバラの街を歩くと広告の看板が全くと言ってよいほど無い。昔ながらの石作りの建物が大半を占めるので、落ち着きがあり歩いていて心地よい。景観を重んじるイギリスの国の姿勢を感じた。

物価は思ったより高めだった。15万円をポンド（相場は130円であるが換金時は146円）に換金したが全部使い切った。

食事ではイギリス料理はあまり美味しくない。代わりに街のトルコ料理、タイ料理やインド料理は旨かった。昼食は15ポンド程度で、酒や飲み物は食事に必ず必要となる。私はワインを中心にビールも2回飲んだ。

日本と違い、ウォシュレットがまったくないのが不自由だ。日本のようにコンビニは全くなく、スーパーマーケットもあまり見掛けなかった。自動販売機も少なく、買い物には不便な国だと感じた。

テレビ（BBC）を良く見たが、日本の話題はほとんどない。民主党代表選挙のニュースもなく、実家へ電話して初めて菅さんが選ばれたことを知った。

電子機器、特にビデオカメラ、デジカメは日本企業が独占していた。テレビなど家電製品はフィリップスが強そうだった。

全体を通して英語力の不足を実感した。今後のためにさらなる努力が必要だ。

3. 費用

交通費

①航空運賃

JTB 依頼で、成田～カーディフ～エジンバラの往復で21万円程度だった。今までより高い。

②電車、タクシー

レート130円で鉄道代はカーディフ～パディントンが40ポンド。地下鉄は1日券が12ポンド。タクシーにはメーターがあるものが大半だが無いものもある。

る。パディントン～ヒースローは55～65ポンド。エジンバラ～ロイヤルブリティッシュホテルは30ポンド。カーディフ～サンドリングラムホテルが20ポンド（4人で割り勘）。

ホテル代

Cardiff Sandringham Hotel : 9,186円（2泊）

ノーフォークタワーズ・パディントン : 14,700円（3泊）

Royal British Hotel : 14,232円（4泊）

朝食はパン、ヨーグルト、ベーコン、ソーセージ、卵、マッシュルーム。飲み物はコーヒー、紅茶、ジュース、牛乳に果物もあるが、野菜物はない。ホテルには寝巻き、スリッパと歯ブラシはない。シャンプー類はある。

4. 海外旅行の楽しさ

海外旅行はヨーロッパ7回、アメリカ2回、アジア4回、オセアニア3回と、今回のイギリスは数えて16回目となったが、海外旅行は何度行っても楽しく、エキサイティングで、新たな発見がある。

海外旅行を楽しむなら少し費用はかかるが、ツアーで行くより一人か二人で行くのが良い。現地で自分の言葉をしゃべり、相手と意思疎通をして問題を解決しながら、計画を進めていくスリルを味わうことができる。英語の大切さを実感するとともに、その国の人たちの人情を感じ、国際交流をすることが出来る。現地の人はおおむね気さくで、ことらから質問すれば親切に教えてくれる。このような交流の積み重ねが相手国を理解し、日本を理解してもらう機会にもなると思っている。

日本人はツアーなどの団体が多いが、団体で行くと内輪での日本語の会話となってしまう、その国の環境にひたることができず、計画も旅行社まかせで苦労がない。結果、強烈な印象を受けることはできない。若い人たちには、少人数で自ら計画し外国へ行ってみることを薦める。ただし年を取ると何から何まで自分で手配するのはしんどく、ツアー旅行は楽だと実感する。